

会 報

No.40 (1991年11月)

目 次

◆会長あいさつ	1
◆第14回 日本分子生物学会年会のお知らせ(その3)	2
◆1990年度会計収支決算報告	4
◆1990年度会計監査報告	5
◆第14回 総会のご案内	5
◆文部省科学研究費について	5
◆各種研究助成などへの本学会推薦について	5
◆平成3年度文部省科学研究費重点領域研究 公開シンポジウム「DNA 結合蛋白質」のお知らせ	6
◆千里ライフサイエンス振興財団各種セミナーのご案内	7
◆第9回 蛋白質の一次構造解析法国際会議 (MPSA 1992)のお知らせ	9
◆日本学術会議だよりNo.21、No.22	11

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

会長あいさつ

三浦 謹一郎

前期会長関口睦夫さんからバトンタッチを受けましたのでよろしくお願いたします。

分子生物学の進展にともない、本学会も会員数4,500名に達する大規模な学会になって参りましたが、先輩方のご盡力を忘れることなく、分子生物学界の発展のために少しでも皆様のお役に立てればと思っております。

本学会ではこれまでも年会やシンポジウムのあり方と出版活動についての検討が重ねられ、前期には評議員会の中に将来計画委員会が設けられてそういった問題の処理に当って参りましたが、これからもこの委員会を中心に学会の機能を高めるようにしたいと思っております。会員の皆様の建設的な御意見を評議員を通して集約できるように願って居ります。

今期、当学会の役員は次のように決めさせていただきました。ご協力のほどよろしくお願申し上げます。

庶務幹事	渡邊 公綱 (東大・工)	集会幹事	吉川 寛 (阪大・医)
会計幹事	榊原 祥公 (予 研)	編集幹事	関口 睦夫 (九大・医)

将来計画委員会

大石 道夫 (委員長)、石浜 明、吉川 寛 (集会幹事として参加)、
関口 睦夫 (編集幹事として参加)

評議員名簿 (50音順)

饗場 弘二 (名大・理)	富沢 純一 (遺伝研)
石浜 明 (遺伝研)	豊島久真男 (阪大・微研)
岩淵 雅樹 (京大・理)	中西 重忠 (京大・医)
大石 道夫 (東大・応微研)	松原 謙一 (阪大・細胞工学センター)
小川 英行 (阪大・理)	三浦謹一郎 (学習院大・理)
大島 靖美 (九大・理)	水野 重樹 (東北大・農)
小関 治男 (京大 名誉教授)	村松 正実 (東大・医)
榊 佳之 (東大・医科研)	柳田 充弘 (京大・理)
高浪 満 (京大・化研)	由良 隆 (京大・ウイルス研)
谷口 維紹 (阪大・細胞工学センター)	

なお、評議員として当選された 吉川 寛氏 には幹事になっていただきましたので、今期の評議員は19名です。

◆第14回 日本分子生物学会年会のお知らせ（その3）

年会のプログラムの印刷ができましたのでお届けいたします。なお、年会についてのお問い合わせ、各種のご連絡は下記宛にお願いいたします。

〒530 大阪市北区松ケ枝町 6-3 第10田淵ビル 2F

(財)日本学会事務センター 大阪事務所内

第14回日本分子生物学会年会係

TEL : (06) 356-6041 FAX : (06) 356-6190

参加手続きについて

1. すでに年会参加費を払い込まれた方は、12月5日頃にお送りするネームプレート（領収証兼用）に、当日は名前をお書きになり、胸に着けてご入場下さい。

また、講演要旨集の発行予定日は12月1日で、その後すみやかに発送予定です。

2. 当日受付は、12月17日午前8時30分より福岡サンパレスの2階ロビーの受付で行います。当日、参加費を支払われる方は、年会参加費 会員6,000円（ただし、学生会員は5,000円）、非会員7,000円をお支払いのうえ、年会講演要旨集とネームプレートを受取ってご入場下さい。

3. 懇親会を12月19日午後7時より福岡サンパレスのパレスルーム（B会場）にて開催いたします。費用は5,000円です。奮ってご参加下さい。

4. 講演要旨集のみ、購入されたい方は、会報No.39に同封してお配りしました振替用紙にてご送金のうえ、お申し込み下さい（1部：会員 2,000円、非会員 4,000円）。

ポスター発表についての注意事項

第14回 日本分子生物学会年会においてポスター発表を予定しておられる方は、下記の注意事項を読んで準備をして下さい。

1. ポスター発表演題には4ケタの発表番号がつけてあります。最初の数字は年会何日目であるか、次の3ケタの番号は掲示パネルの番号を示しています。要旨の前に同じ番号がつけられています。発表番号についてはプログラムをご覧ください。

2. パネル上の掲示に使えるスペースは、150 cm×150 cmで両側に約30 cmの間隔があります。ポスター上部に、発表番号・演題・発表者名・所属を大きな字で書いて下さい。見学者が特定のポスターを見いだすのに便利なように、演題・発表者名・所属は少なくとも5～6 m離れた位置からも明瞭に見える大きさにして下さい。なお、代表発表者名の前に○印をつけて下さい。

3. 言語は原則として日本語とします。簡単な序論と結論を含めるようにして下さい。また、英文題目ならびに要旨を、A 4 または B 4 判用紙 1 枚にまとめ、序論の前に貼って下さい。
4. 2～3 m 離れたところからも読めるように、十分大きな字を書いて下さい。図・表等もできるだけ大きなものにして下さい。
5. ポスターの様式は自由です。パネル表面は、ウス水色の表装をしております。カラーインクを用いて色分けする、図解を用いる、色付きの台紙に貼るなど見やすいものにする工夫をしてください。
6. ポスター掲示およびポスターの取付け・取外しの時間は下記の通りです。時間を守るようにして下さい。取付けに必要な押しピンはポスター発表者受付に準備してあります。

9:00～19:00	ポスター掲示（最終日は16:30まで）
8:30～9:00	取付け（第2、3、4日目に発表の分については各前日の19:30～20:00でも可）
9:30～10:30	口頭説明（演題番号が奇数のポスター）
11:00～12:00	口頭説明（演題番号が偶数のポスター）
19:00～19:30	取外し（最終日は16:30～17:00）

7. 指定された口頭説明の時間帯には説明・討論ができるようにポスターの掲示場所に代表発表者が待機して下さい。

シンポジウム講演者へのご注意

シンポジウム毎、演題毎に講演時間、討論時間が異なっている場合が多いので、ご自分の発表時間についてプログラムで確認の上、発表の準備をして下さい。

福岡サンパレス内小会議室の使用についてのお知らせ

第14回 日本分子生物学会年会の第1、2日（12月17日、18日）の日程終了後に小集会、インフォーマル・ミーティングなどの開催を希望される方は、小会議室を準備出来ると思いますので、日本学会事務センター大阪事務所内第14回 日本分子生物学会年会係までお問い合わせ下さい。

◆ 1990 年度会計収支決算報告

1990 年度学会会計収支決算は以下の通りになりましたので報告いたします。

1990 年度日本分子生物学会収支決算書（1990年4月1日～1991年3月31日）

収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
学 会 費	7,990,000	9,668,081	{ 入会金 618,000 正会員 7,025,000 学生会員 1,842,000 外国会員 183,081
賛 助 会 費	1,050,000	1,020,000	
広 告 収 入	1,800,000	1,977,100	
預 金 利 子	200,000	523,377	
雑 収 入	300,000	578,622	印税等
小 計	11,340,000	13,767,180	
前 年 度 繰 越 金	9,000,000	9,923,505	
総 計	20,340,000	23,690,685	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
事 業 費	2,600,000	2,812,388	{ 第13回 年会 "
{ 会 報 発 行	{ 850,000	{ 864,788	
{ プ ロ グ ラ ム	{ 550,000	{ 747,600	
{ 特 別 講 演 謝 金	{ 200,000	{ 200,000	
{ 第 14 回 年 会 補 助	{ 1,000,000	{ 1,000,000	
評 議 委 員 会 費	2,200,000	2,194,756	
{ 委 員 会 費	{ 600,000	{ 142,508	
{ 役 員 選 挙 名 簿 作 製 費	{ 1,600,000	{ 2,052,248	
業 務 委 託 費	3,700,000	4,477,288	(財)日本学会事務センター
一 般 事 務 費	3,155,000	3,994,498	
{ 用 品 費	{ 5,000	{ 300	
{ 印 刷 費	{ 50,000	{ 93,230	
{ 通 信 費	{ 3,000,000	{ 3,898,833	
{ 事 務 謝 金	{ 50,000	{ 0	
{ 雑 費	{ 50,000	{ 2,135	
予 備 費	500,000	0	
小 計	12,155,000	13,478,930	
次 年 度 繰 越 金	8,185,000	10,211,755	
総 計	20,340,000	23,690,685	

◆ 1990年度会計監査報告

1991年6月12日、会計簿、預金通帳、領収書、学会センター出納記録などの監査を行い、決算に誤りのないことを確認しました。

日本分子生物学会第6期会計監査

水島 昭 二 ㊟

溝 淵 潔 ㊟

◆ 第14回 総会のご案内

年会会期中に、日本分子生物学会第14回総会を下記により開催いたしますので、ご出席をお願いします。

記

日時：1991年12月19日（木）午後6：00～7：00

場所：福岡サンパレス 大ホール（A会場）

次第：1. 経過報告

2. 議 題

- i) 前年度会計収支決算承認の件
- ii) 来年度事業計画および予算承認の件
- iii) その他

◆ 文部省科学研究費について

一般研究（C）について、平成3年度から3年間の「時限付き分科細目」のひとつとして「分子細胞生物学」が設定されました。日本学術会議より本細目の審査委員候補者4名の推薦依頼が本学会にありましたので、評議員の選挙によって4名の方を選び、日本学術会議に推薦しました。

また、従来からあった「生物物理学」分科中の「分子遺伝学・分子生理学」の細目についても、日本生物物理学会との協議のうえ、本学会からも審査委員候補者を推薦しました。

◆ 各種研究助成などへの本学会推薦について

○平成3年度（第18回）日産学術研究助成候補者として、本学会選考委員の意見にしたがい、下記9件を推薦した。

〔一般研究（A）〕

半田 宏（東工大・生命理工）、岡 穆宏（京大・化研）

〔一般研究 (B)〕

堀井 俊宏 (阪大・微研)

〔奨励研究〕

谷 時雄 (九大・理)、杉本 勝則 (名大・理)、宮脇 敦史 (阪大・蛋白研)、
柳澤 修一 (大阪市大・理)、安積 良隆 (神奈川大・理)、鈴木由利子 (自治医大・医)

○平成3年度 (第32回) 東レ科学技術研究助成候補者として下記1名を推薦した。

横山 茂之 (東大・理)

○1991年度 (第4回) 東燃研究奨励費候補者として下記2名を推薦した。

井上 邦夫 (京大・理)、後藤由季子 (東大・理)

◆平成3年度文部省科学研究費重点領域研究

公開シンポジウム「DNA結合蛋白質」のお知らせ

日 時：平成3年12月16日(月) 9:30～16:00

場 所：大阪ガーデンパレス

(JR 新大阪駅下車、西へ徒歩15分)

〒532 大阪市淀川区西宮原1-3-35

TEL: 06-396-6211

主 催：文部省科学研究費重点領域研究

『DNAの高次構造を識別する蛋白質』 総括班 (代表 京極 好正)

趣 旨：X線回折とNMRを軸とする物理的方法によるDNAおよびDNAと相互作用する蛋白質の構造-機能研究の最前線を把握するとともに、遺伝子発現制御系における構造分子生物学の今後の戦略を展望する。

プログラム：

1. 9:30～10:00

DNA結合蛋白質の機能構造：研究の動向

京極 好正 (阪大・蛋白研)

2. 10:00～11:00

NMR Studies of Protein-DNA Interaction. Novel Motifs for DNA Recognition
Robert Kaptein (Univ. of Utrecht)

3. 11:00～12:00

Dynamic State of DNA Conformation in Metabolic Reactive Environment
— Formation of Z-DNA in *myc* Gene —

Alexander Rich (MIT)

12:00~13:30 休 憩

4. 13:30~14:00

ピリミジンダイマー除去修復酵素：T4 エンドヌクレアーゼVの立体構造

森川 耿右 (蛋白工学研)

5. 14:00~15:00

Crystal Structure of T7 RNA Polymerase

Bi-Cheng Wang (Univ. of Pittsburgh)

6. 15:00~16:00

Molecular Dissection of the Fos/Jun Leucine Zipper

Peter S. Kim (MIT)

—— 来聴歓迎 (無 料) ——

連絡先：〒565 吹田市山田丘1-6

大阪大学薬学部 箱嶋 敏雄

TEL : 06-877-5111 内線 6213 FAX : 06-877-4489

◆千里ライフサイエンス振興財団各種セミナーのご案内

第2回「血管病変の分子生物学」のご案内

日 時：平成4年2月7日(金) 午前10時~午後4時

場 所：信用保証ビル3F (地下鉄御堂筋線千里中央駅すぐ)

(大阪府豊中市新千里東町1-2-4)

主 催：財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

協 賛：株式会社 千里ライフサイエンスセンター

プログラム：

1. コレステロール逆転送機構 松沢 佑次 (大阪大学医学部 教授)
2. HDL の抗動脈硬化作用 堀内 正公 (熊本大学医学部 講師)
3. スカベンジャーレセプター 児玉 龍彦 (東京大学医学部 助手)
4. 平滑筋の増殖とサイトカイン 益田 順一 (国立循環器病センター研究所 室長)
5. トロンボキサンレセプター 成宮 周 (京都大学医学部 助教授)

受講料：主催・協賛団体会員：5,000円

一般（非会員）：7,000円

大学関係・学生：3,000円（講演要旨集含む）

参加申込締切：定員（150名）になり次第締切

参加申込方法：① 会社団体名 ② 所在地（〒、Telも） ③ 氏名 ④ 所属・役職名 ⑤ 振込予定日を明記の上、葉書（またはFAX）で下記宛お申し込み下さい。参加費は大和銀行千里中央支店・普通預金No.4601085・財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛お振込下さい。なお振込の際振込者名の前にK2とご記入下さい。

申込先：〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-1 阪急千里中央ビル9階

（財）千里ライフサイエンス振興財団 「血管病変」セミナー係

TEL：06-871-5535 FAX：06-871-5530 担当：松尾・江口

ブレインサイエンスシリーズ 第3回「高次脳活動」のご案内

日時：平成4年3月6日（金） 午前10時～午後4時

場所：信用保証ビル3F（地下鉄御堂筋線千里中央駅すぐ）

（大阪府豊中市新千里東町1-2-4）

主催：財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

協賛：株式会社 千里ライフサイエンスセンター

開催趣旨：脳の科学の発展は、記憶や思考、さらには心や精神というような脳の高次機能の物質的背景の解明にもつながるものと考えられています。また、老人性痴呆やパーキンソン病などの疾患の発症機序、予防と治療についても研究が進められており、脳の科学への関心がますます高まり、まさに『脳の時代』が始まろうとしております。

本シリーズは、このような状況の中、第一線の研究者、研究企画・開発担当者、さらに本分野に興味をお持ちでこれから研究を始めようとされている方々を対象として企画いたしました。

第3回は、「高次脳活動」をテーマに当該分野の著名な先生方をお招きしてご講演頂き、併せて自由に討論頂く質疑応答の時間も設けました。是非ともこの機会をお見逃しなく奮ってご参加下さい。

プログラム：

1. 進化からみた霊長類の脳 俣野 彰三（大阪大学人間科学部 教授）
2. 皮質連合野の神経回路 有國 富夫（日本大学医学部 教授）

3. 随意運動の発動・制御と脳 佐々木和夫 (京都大学医学部 教授)
4. ヒトの記憶の分化と局在 山鳥 重 (兵庫県立姫路循環器病センター 部長)
5. 精神の老化と脳 西村 健 (大阪大学医学部 教授)

受講料：主催・協賛団体会員：5,000円

一 般 (非会員)：7,000円

大 学 関 係 ・ 学 生：3,000円 (講演要旨集含む)

参加申込締切：定員 (150名) になり次第締切

参加申込方法：① 会社団体名 ② 所在地 (〒、Telも) ③ 氏名 ④ 所属・役職名 ⑤ 振込予定日を明記の上、葉書 (または FAX) で下記宛お申し込み下さい。参加費は三和銀行千里中央支店・普通預金No.3656634・財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛お振込下さい。なお振込の際振込者名の前にB3とご記入下さい。

申込先：〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-1 阪急千里中央ビル9階

(財)千里ライフサイエンス振興財団 「ブレインサイエンス」セミナー係

TEL：06-871-5535 FAX：06-871-5530 担 当：松尾・江口

◆第9回蛋白質の一次構造解析法国際会議 (MPSA 1992) のお知らせ

蛋白質の一次構造解析法国際会議は2年毎に開催され、蛋白質の一次構造決定、決定技術、一次構造情報の解析について、最前線の研究者が最新の知見をもって世界中から集まり、討論する国際会議です。このたび、その第9回会議を滋賀県大津市の琵琶湖畔で、平成4年9月に開催することになりました。バイオサイエンスの進歩と蛋白質の重要性が強く認識されつつある今日、それを支える物質的基礎を解明する一次構造解析も日進月歩の展開をしています。蛋白質の一次構造やその情報解析に関心をお持ちの方々には大変有益な会議ですので、ご参加をお薦めいたします。

開催期日：平成4年9月20日(日)～24日(木)

開催場所：大津市 大津プリンスホテル

討論主題：① 蛋白質のマイクロセパレーションとマイクロシーケンシング

② 翻訳後の修飾アミノ酸の同定

③ 質量分析法によるアミノ酸配列分析

④ 蛋白質一次構造のデータベースと構造情報の解析

⑤ 一次構造をもとにした高次構造の予測

参加登録費：5万円 (含バンケット)。当日登録費は6万円 (一般)。

参加者は全員会場のホテルに割安で宿泊していただく予定です（宿泊料は参加登録費には含まれません）。ファースト・サーキュラーがご入用の方は、下記にご連絡下さい。また、郵便番号、住所、氏名を記した郵便宛名シートを**2枚、平成3年12月31日**までに下記の事務局に送りますと、セカンド・サーキュラーが自動的に送付されます。

MPSA 1992 事務局：〒600 京都市下京区塩小路通新町西入 新京都センタービル5F
(株)ジェイコム内 (TEL：075-341-1618 FAX：075-341-1917)

第14期最後の総会終わる

平成3年6月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、去る5月29日から31日まで第111回総会を開催しました。今回の日本学術会議だよりでは、その総会で採択された勧告を中心に、同総会の議事内容等についてお知らせします。

日本学術会議第111回総会報告

日本学術会議第111回総会（第14期・第7回）は、平成3年5月29日～31日の3日間開催された。

総会冒頭に逝去された大谷茂盛、石原智男両会員の冥福を祈り黙禱を捧げた。会長からの経過報告の後各部・各委員会の報告があった。続いて規則の一部改正1件、国際対応委員会の設立等運営内規の改正1件、申し合わせ2件、勧告1件、要望1件、対外報告等3件、計9議案の提案があった。これらの議案については、同日午後の各部会での審議を経て、第2日目の午前に採決された。

なお、総会前日の午前には連合部会を開催し、これらの議案の説明、質疑を行った。また、総会に平行し、第1日目の夕方には第771回運営審議会が開催されて、これら議案についての各部の審議状況が報告された。

第2日目の午後は、「ポスト湾岸をめぐる諸問題」について自由討議が行われた。

第3日目の午前には各特別委員会が、午後には各常置委員会が開催された。

今回の総会では、「大学等における人文・社会科学系の研究基盤の整備について（勧告）」と「公文書館の拡充と公文書等の保存利用体制の確立について（要望）」が採択され、同日（30日）午後、内閣総理大臣に提出され、関係各々に送付された。

日本学術会議としての国際対応組織の問題は、前期からの懸案事項であったが、今期においてもこの問題は新たに増幅され、国際対応委員会を当分の間設立することが決まり、それに伴い運営内規の一部を改正することとなった。

対外報告としては、「人間活動と地球環境に関する日本学術会議の見解」を〔人間活動と地球環境に関する特別委員会〕が、「医療技術と社会に関する特別委員会報告—脳死をめぐる問題に関するまとめ—」についてを〔医療技術と社会に関する特別委員会〕がまとめ採択された。また、会長提案のバイオテクノロジー国際科学委員会及び国際微生物学連合への加盟も採択された。

「ポスト湾岸をめぐる諸問題」についての自由討議は、大石泰彦副会長の司会で、はじめに話題提供として第2部の西原道雄部長、第2常置委員会の星野安三郎委員長、平和及び国際摩擦に関する特別委員会の川田 侃委員長がそれぞれ部・委員会の審議状況を報告した。それに基づき、会員間での意見交換が行われた。

大学等における人文・社会科学系の研究基盤の整備について（勧告）

国家・社会の健全な発展は、人文・社会科学と自然科学のバランスのとれた学術研究の成果が常にその土壌となっている。ところが、戦後の我が国では、自然科学の急速な進展に比して、人文・社会科学がそれに対応できない状況にある。それは、大学等における人文・社会科学系の研究基盤が整備されなのまま放置されていたことに起因する。その上、これからの我が国は、国内的には広く生涯教育を推進し、国際的には各国との研究交流や留学生の受け入れなどを一層積極的に行うことを要請されている。すでに日本学術会議は、第13期において「大学等における学術予算の増額について（要望）」などを要望しており、これを踏まえて第14期では、さきに、主として自然科学系の「大学等における学術研究の推進について—研究設備等の高度化に関する緊急提言—（勧告）」の勧告をした。それに続いて、ここに人文・社会科学系の大学等における研究基盤を早急に改善し、整備するよう勧告する。

まず、人文・社会科学系の研究基盤を改善し、整備するためには、研究に関わる人的構成の強化を必要とする。したがって、なによりも研究者の増員が必要であり、それに関連して、特に若手研究者の養成と研究補助者の増員が求められる。今日、人文・社会科学も自然科学と同様に、研究分野が細分化されるとともに総合化も図られ、それに応じて新しい分野が開発され、それぞれの分野において総合的かつ多面的な研究方法が採られるようになったからである。

また、国内外でのフィールド・ワーク等の研究調査や外国人研究者の招へいなどがより活発に行われるためには、研究費の大幅な増額を必要とする。なお、国公立大学等における研究費の実験系と非実験系による区分は適正な基準により是正する必要がある。

さらに、人文・社会科学系の研究基盤の整備には、図書や資料の収集・保管など学術情報の充実が要求される。それを充たすには、それぞれの研究室における情報処理機器を整備・充実するとともに、図書館・情報センターなどの学術情報機関の拡充を図るべきである。その際、情報処理機器の購入と維持のために相対的に図書購入に当てる費用が圧迫されてはならず、図書費全体についても特段の増額が必要である。

以上のように人文・社会科学の人的・物的な研究基盤の速やかな整備が、国公立大学のみならず、すべての研究機関において今日切実に要望されている。なお、大学等における研究基盤の整備に役立つ民間からの寄付等の援助には、それに対する包括的かつ柔軟な免税措置等が講じられるよう配慮すべきである。

公文書館の拡充と公文書等の保存利用体制の確立について(要望)〔要旨〕

わが国の公文書等の保存体制は、公文書館法が公布・施行されて大きく前進したが、その体制はなお国際的にみて大きく立ち遅れた状況にある。公文書等はきわめて重要な学術情報であり、かつ、国民共有の文化的・歴史的資産として貴重であることから、その保存・利用体制を確立するために以下の措置を早急に講じられるよう要望する。

1. 国立公文書館の拡充とその権限の強化

現在の国立公文書館はその設備・人員等がきわめて貧弱であり、また、権限が著しく弱小である。国の公文書等の保存利用体制の確立のために、まず国立公文書館の権限を強化し、その設備・人員を大幅に拡充整備する必要がある。

2. 地域文書館の設立・整備のための国の支援の強化

公文書館法の公布以後、地方公共団体において公文書館を設立する動きがあるが、まだ、その動きは限られている。設立を促進し機能を強化するために、国の財政的援助を拡充すると共に、地方公共団体の自主性を尊重しつつ国の技術的な指導・助言を強化する必要がある。あわせて、公文書等の保存に関して、文書館の権限を強化する必要がある。

3. 公文書館専門職員養成制度と資料学・文書館学研究体制の整備

公文書館専門職員の養成・確保は緊急な課題であり、わが国にふさわしい専門職養成制度を早急に確立すべきである。この確立のためには、資料学・文書館学の研究者を確保し研究を推進するための体制を整備する必要がある。

4. 公文書館法の整備

以上のような措置を講じる上で、現在の公文書館法は、公文書館の設置義務とその権限、専門職員の資格と地位、地域文書館への国の支援などについて不十分な点が多くみられるので、これを早急に整備して、公文書等の保存利用体制の確立を推進する必要がある。

人間活動と地球環境に関する日本学術会議の見解〔要旨〕

日本学術会議は、人間活動と地球環境に関する問題に強い関心を持ち、特別委員会や多数の研究連絡委員会において学術情報を集め、問題を総括し、研究体制の検討等を行ってきた。これらを基礎として見解を表明する。

日本はその自然環境の多様性や、近年の人間活動の急速な進展により環境問題に対して厳しい見方が必要である。この関連の研究は従来必ずしも十分ではなかった。国際協力の下に多岐にわたる学問分野がこれまでの枠を拡大し、多分野の学協会が融合化して活動し、新しい分野の研究活動の強力な推進を図るべきである。また、地球環境問題はグローバルな問題であるが、個々の人間の対応から出発する問題でもあるから教育や啓蒙活動が急務である。

わが国では多数の省庁が研究を行っているが、相互関係や全体を見渡した有機的・体系的な研究推進政策が必要である。日本学術会議はこれらのための助言、連絡、調整等にその組織と能力を生かして活動し努力する。

医療技術と社会に関する特別委員会報告 —脳死をめぐる問題に関するまとめ—

医療技術は不断に進歩するが、その進歩が著しければ著しい程、医療技術と人々のものの考え方や社会的な習慣との間に調和を欠く状況が生じている。脳死の取扱をめぐる問題はその一つである。今期の本特別委員会では「脳死は人の死か」についての直接的な審議は保留し、「もし脳死をもって人の死とすると、あるいは臓器移植を視点に入れると、何が問題になり、それを如何に考えるか」などについて論議した。本報告はその結果を整理したものである。

(原文のまま、以下項目のみ)

- 1 脳死患者の医療上の取扱
- 2 意思の個別の確認について
- 3 死亡時刻の考え方に関して
- 4 医療提供側の問題点
- 5 医療費の取扱について

日本の学術研究環境—研究者の意識調査から—(第3常置委員会)刊行される

第3常置委員会は、第13期の「学術研究動向」調査を踏まえ、21世紀に向けて我が国の学術研究の中心的存在として活躍を期待される30歳代から40歳代の若手研究者(約200人)を対照に、学術研究の基礎となる「研究環境」についてのアンケート調査(調査事項は、大別して「学術研究の組織・体制、研究者の養成・確保と国際化、研究費の調達・運用と研究設備、情報の収集・保存)を行い、その結果を基礎に報告書を作成した。なお、本書は日学資料として刊行している。

日本学術会議主催公開講演会「日本の学術研究環境は21世紀に対応できるか開催される

「日本の学術研究環境」の刊行を記念し、平成3年6月6日(木)13時30分~17時00分に日本学術会議講堂において開催された。近藤会長の開会のあいさつの後、澤登第2部会員の司会により、①「日本の学術研究環境—研究者の意識調査から—」(森第7部会員)②「純粹基礎研究は大学しかやらない(有馬第4部会員)③私立大学の立場から(松本第2部会員)④「産業の立場から」(内田第5部会員)の講演の後、総合討論を経て、渡邊第7部会員(第3常置委員会委員長)の閉会のあいさつをもって盛況のうちに終了した。なお、本公開講演会の内容は、追って日学双書で刊行する予定である。

平成3年1月以降、委員会等別の 対外報告

部	1件	特別委員会	4件
常置委員会	1件	研究連絡委員会	23件

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

第15期最初の総会開催される

平成3年8月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議の第15期が7月22日から発足し、7月22日～24日の3日間、第15期最初の総会が開催されましたので、その総会等についてお知らせします。

日本学術会議第112回総会報告

7月22日の第15期の発足に伴い、内閣総理大臣による日本学術会議会員の辞令交付が行われた。第15期の会員は、選出制度が学術研究団体を基礎とする推薦方式になって、3回目の会員である。この第15期会員による最初の総会である、第112回総会が7月22日から24日までの3日間、本会議講堂で開催された。

第1日目(22日)は、午前は新会員への辞令交付式があり、午後総会が開会され、直ちに、会長及び両副会長の選挙が行われた。会員による互選の結果、会長には近藤次郎第5部会員が13期、14期に引き続き三選された。人文科学部門の副会長には、川田侃第2部会員、自然科学部門の副会長には、渡邊格第4部会員が選出された(渡邊副会長は再選)。選挙終了後、近藤会長から「新人の方が半数以上おられ、大きな抱負をもっておられると思う。挫折感を持つことのないようできるだけ努力をしたい。皆様にも御協力をお願いしたい」との就任のあいさつがあり、又、川田、渡邊両副会長からもそれぞれ就任のあいさつがあった。

会長、副会長選出後は、直ちに各部会が開催され、各部の部長、副部長、幹事の選出が行われた。(第15期の役員については、別掲を参照)

第2日目は10時に総会が開催され、近藤会長が14期の会長という資格で第14期の総括的な活動報告を行った。その報告の折々には、国際交流とか、将来計画委員会、学術会議の予算等、会長の感慨、または感想をも交えてその所感を述べた。続いて、会員推薦管理会報告として、久保亮五委員長の代理として事務総長が、第15期会員の推薦を決定するまでの経過報告を行った。

引き続き、会長から3日目の総会で提案・審議する予定の「第15期活動計画委員会の設置について(申合せ案)」に関する各部での事前討議について、並びに各常置委員会の各部での委員の選出について、それぞれ各部へ依頼した。

総会終了後、各部会が開催され、前述の申合せ案の討議及び各常置委員会委員の選出等が行われた。

第3日目(24日)10時に総会が開会され、会長から「第15期活動計画委員会の設置について」の提案が行われた。

これは、第15期の活動の基本計画の立案を目的とする臨時の委員会を次の定例総会までの間、設置するという内容を内容としている。そしてこの提案は原案どおり可決された。総会終了後、直ちに各部会が開会され、設置が決定された第15期活動計画委員会委員の選出等が行われた。

なお、この第15期活動計画委員会は、総会期間中に第1回の会議を開き、全会員を対象にした第15期の学術会議の活動に関するアンケートの実施を決めるなど、早速その活動を開始した。

また、運営審議会附置委員会、常置委員会、国際対応委員会等も活動を開始した。

第15期日本学術会議の辞令交付式等について

第112回総会に先立ち、第15期日本学術会議会員の辞令交付式が7月22日(月)11時から、総理大臣官邸ホールで行われた。辞令交付式は、海部内閣総理大臣、坂本内閣官房長官、大島、石原両官房副長官、稲橋総理府次長等の出席を得て執り行われた。

第1部から第7部までの会員1人ずつの名前が読み上げられた後全会員の最年長である渡邊格第4部会員が代表して海部総理から辞令を手渡された。この後、海部総理大臣から「会員の皆様には、創造性豊かな科学技術の発展、総合的観点に立った学術研究に係る諸活動に御尽力いただきたい。」とのあいさつがあり、これに応じて第15期会員を代表して渡邊格会員が「微力ながら全力を尽くし、重要な責務を全うし、国民の期待に応えたい。」とあいさつがあり、式は終了した。式には192名の会員が出席した。

また、総会2日目の夕方には、学術会議ホールで、坂本官房長官主催の第15期会員就任パーティーが開催された。パーティーは坂本官房長官のあいさつで開会し、日本学士院院長代理の藤田良雄幹事の祝辞があり、これに対する近藤会長の答礼のあいさつ、沢田敏男日本学術振興会会長の発声による乾杯の後、懇談に入った。ホールには溢れんばかりの人々で歓談が続き盛会であった。

第15期日本学術会議役員

会長	近藤 次郎 (第5部・経営工学)
副会長	川田 侃 (第2部・政治学)
副会長	渡邊 格 (第4部・生物科学)
＜各部役員＞	
第1部 部長	肥田野 直 (心理学)
副部長	弓削 達 (歴史学)
幹事	一番ヶ瀬康子 (社会学)
"	山本 信 (哲学)
第2部 部長	西原 道雄 (民法法学)
副部長	細谷 千博 (政治学)
幹事	正田 彬 (社会法学)
"	山下 健次 (公法学)
第3部 部長	大石 泰彦 (経済政策)
副部長	島袋 嘉昌 (経営学)
幹事	岡本 康雄 (経営学)
"	藤井 隆 (経済政策)
第4部 部長	中嶋 貞雄 (物理科学)
副部長	田中 元治 (化学)
幹事	竹内 郁夫 (生物科学)
"	樋口 敬二 (地球物理学)
第5部 部長	岡村 総吾 (電子工学)
副部長	市川 惇信 (計測・制御工学)
幹事	内田 盛也 (応用化学)
"	増子 晃 (金属工学)
第6部 部長	中川昭一郎 (農業総合科学)
副部長	水間 豊 (畜産学)
幹事	志村 博康 (農業工学)
"	平田 熙 (農芸化学)
第7部 部長	岡田 晃 (社会医学)
副部長	伊藤 正男 (生理科学)
幹事	渥美 和彦 (内科系科学)
"	金岡 祐一 (薬科学)

(注) カッコ内は、所属部・専門

第15期日本学術会議会員の概要について

この度任命された210人の第15期日本学術会議会員の概要を以下に紹介する。(カッコ内は前期)

1 性別	男子207人(207人)	女子3人(3人)
2 年齢別	50～54歳 3人	55～59歳 29人
	60～64歳 105人	65～69歳 58人
	70～74歳 15人	
	最年長	74歳(76歳)
	最年少	54歳(51歳)
	平均年齢	63.5歳(63.1歳)

3 勤務機関及び職名別

(1) 大学関係	国立大学	71人(78人)
	公立大学	2人(4人)
	私立大学	93人(88人)
	その他	3人(2人)
	計	169人(172人)
(2) 国公私立試験研究機関・病院等		11人(9人)
(3) その他	法人・団体関係	9人(10人)
	民間会社	9人(6人)
	無職	10人(13人)
	その他	2人(0人)
	計	30人(29人)
4 前・元・新別	前会員	88人(109人)
	元会員	3人(4人)
	新会員	119人(97人)
5 地方別(居住地)	北海道	4人(3人)
	東北	8人(6人)
	関東	133人(130人)
	中部	20人(17人)
	近畿	34人(42人)
	中国・四国	5人(4人)
	九州・沖縄	6人(8人)

(注) 詳細については、日本学術会議月報7月号を参照

平成4年(1992年)度共同主催国際会議

本会議は、昭和28年以降、学術関係国際会議を関係学術研究団体と共同主催してきたが、平成4年(1992年)度には、次の6国際会議を開催することが、6月7日の閣議で了解された。(カッコ内は、各国際会議の開催期間と開催地)

・第9回国際光合成会議

(平成4年8月30日～9月5日, 名古屋市)

共催団体: 日本植物生理学会

・国際地質科学連合評議会及び第29回万国地質学会議

(平成4年8月24日～9月3日, 京都市)

共催団体: (社)東京地学協会外5学会

・第5回世界臨床薬理学会議

(平成4年7月26日～31日, 横浜市)

共催団体: 日本臨床薬理学会

・第11回国際光生物学会議

(平成4年9月7日～12日, 京都市)

共催団体: 日本光生物学協会

・第14回国際平和研究学会総会

(平成4年7月27日～31日, 京都市)

共催団体: 日本平和学会

・第8回国際バイオレオロジー会議

(平成4年8月3日～8日, 横浜市)

共催団体: 日本バイオレオロジー学会

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

財団法人 長瀬科学技術振興財団

平成4年度 助成候補者募集

財団法人 長瀬科学技術振興財団は、わが国の生化学及び有機化学等の分野における研究開発及び国際交流に対し助成等を行うことにより、科学技術の振興を図り、もって社会経済の発展に寄与することを目的として、下記のとおり平成4年度の研究助成を行う事と致しました（詳細は長瀬科学技術振興財団までお問合せ下さい）。

－ 記 －

(1) 研究助成対象

- ① 生化学及び有機化学等の分野において研究活動を行う研究者又は研究機関
- ② 生化学及び有機化学等の分野において研究調査を行う研究者の海外派遣又は招聘

生化学は次の分野とします。

- 微生物の基礎及び応用研究
- 酵素の基礎及び応用研究
- 細胞培養の基礎及び応用研究
- 内因性防御物質の応用研究

有機化学は次の分野とします。

- π 電子系機能材料の基礎及び応用研究
- 分子機能材料、機能分子デバイスの基礎及び応用研究
- 新規生理活性物質等の生体関連機能物質の合成研究

(2) 件数及び金額

- | | | |
|-----------|--------------|--------|
| ① 研究助成金 | 1 件 250 万円程度 | 10 数件 |
| ② 国際交流助成金 | 1 件 50 万円程度 | 10 件程度 |

(3) 応募資格

- ① 研究者であれば個人又はグループを問いません。
- ② 同一内容で他の財団から既に助成を受けている個人又はグループはご遠慮願います。
- ③ 当財団に結果の報告書提出が可能な方。

(4) 応募の締切り 平成3年12月末日(必着)

(5) 交付の時期 平成4年4月予定

(6) 応募要領及び注意事項

- ① 当財団所定の用紙に記入して応募して下さい。
応募ご希望の方、下記宛にはがき或は FAX 等書面でご請求下さい。申請用紙を折返しお送り致します。
- ② 申請書は、正・副 各1通提出して下さい。
- ③ 申請書は、ホッチキスでとめずに、クリップ等をお願い致します。
- ④ 申請にあたりましては、1件の応募につき、1通の封筒をお願い致します。
- ⑤ 当財団が申請書を受領したことをお知らせするため、宛名(郵便番号、住所、氏名、機関名等)を記入された「返信用はがき」を同封して下さい。

(7) 問合せ先

(財)長瀬科学技術振興財団

〒550-91 大阪市西区新町一丁目1-17

TEL: 06-535-2117 FAX: 06-535-2160

(東京連絡所: 〒103 東京都中央区日本橋小舟町5-1

TEL: 03-3665-3021 FAX: 03-3665-3030)

(以上)

日本分子生物学会 会報

年3回刊行（6月・11月・2月）

第40号（1991年11月）

発行：日本分子生物学会 庶務幹事

製作：財団法人日本学会事務センター 大阪事務所